

<資料>

## ドイツ語における *werden* の意味と文法 — ケストナーの母親への手紙を資料として —

— About the Semantics and Grammatical Meanings of the German “*werden*” —

板山 眞由美\*

Mayumi Itayama

現代ドイツ語において *werden* は助動詞としてだけでなく、本動詞としても用いられる。筆者は既に助動詞として用いられる *werden* について、動詞の不定詞と結びつく構文、さらに動詞の過去分詞と共に、いわゆる動作受動と呼ばれる受動文をつくる *werden* を取り上げ、検証を行った。本稿の目的は、本動詞として用いられる *werden* について、新たに得た資料にもとづいて、その意味用法を整理し、分類することである。

キーワード：本動詞 *werden*、変化・生成、起動的 *inchoativ*、時間指示、実現性

### I. はじめに

筆者は *werden* と動詞の不定形がつくる構文の意味用法を研究する過程で、*werden* が同様に助動詞として用いられ、動詞の定形ではなく、過去分詞と結びついて構成する受動文に注目するようになった。限られた資料にもとづいた分析ではあるが、*werden* が持つ完了的・起動的意味が、他の文要素や文脈との関わりの中で、時には保持され、また場合によっては背景に押しやられるなど、そこにはさまざまな関係が指摘できた。文の時間指示という観点、特に事柄が実現しているかどうかについては、動詞の動作態 *Aktionsart* が特に重要な役割を果たす。それに加えて他の文要素、主語の人称や数、副詞規定や前後の脈絡などが総合的にその解釈に関与している。

今回は検証の焦点を、*werden* が助動詞として用いられた構文、及び文法形式から、本動詞 *werden* に移すこととする。本動詞 *werden* は基本的に「～になる」あるいは、「(事柄が) 起こる」という意味を持つ。しかしその意味内容は、*werden* と結びつく述部の性質や、その有無によって異なる様相を示す。例えば次の例文 a) において、コーヒーは発話時に冷めはじめているとも考えられる。それに対して b) においては、主語の表す人物は、まだ弁護士になってはいない。事柄の実現という観点から見ると、同一の意味内容を表しているとは必ずしも言えない。

---

\*流通科学大学 非常勤講師、〒651-2188 神戸市西区学園西町 3-1

- a) Der Kaffee *wird* kalt. コーヒーが冷める。  
 b) Er *wird* Rechtsanwalt. 彼は弁護士になる。

一般的に *werden* は起動的 inchoativ であると記述されるが、事柄の変化や生成が、果たして現時点で起こりつつあるのか、もしくはまだ起こっていないのか、つまり未然の事柄が表されているのかどうかについては、あまり問題にされてこなかったのではなかろうか。本稿の目的は、この点の検証に向けて、まずは資料を分類・整理することから始めようと思う。文例は Erich Kästner が母親に宛てて書いた手紙を集めて編集された "*Mein liebes gutes Muttchen, Du!*" (Albrecht Knaus Verlag, Hamburg) より得た。この書簡集は、1923 年から 1957 年まで Kästner が母親に宛てて書き送った手紙を、晩年彼と生活を共にした女友達 Luiselotte Enderle が本人から直接譲り受け、1981 年「時期が来たと思う」として一冊の書簡集にまとめて出版したものである。

## II. 分類

上で述べたように、*werden* が用いられた文が表す変化の様相は、この語と共に文を構成する述語・述部によって、必ずしも一様ではないと考えられる。以下では先ず述語・述部の種類によって *werden* の用法を分類する。

### 1. 形容詞との共起 (138 例)

文例に続いて示す括弧内の数字はページを示す。斜体は筆者による。一部、動詞人称変化形の語尾の省略や、ケストナー独自の言い回しと思われる名詞が見られるが、原書に忠実にそのまま引用した。

- 1) *Wird* das zu teuer? (15)
- 2) Hauptsache, daß es überhaupt erst mal fertig *wird* und uns hinterher noch genau so gut gefällt wie vorher. (26)
- 3) Jedenfalls, der kleine Erich *wird* immer berühmter. (89)

ケストナーは文例 3) で、無名であった自分が「ますます有名になる」と書いているが、この文を書いた時点で、既に「有名になる」という変化は起こっていると思われる。

### 2. 名詞との共起 (36 例)

- 4) Es *wird* ein Reklameprospekt mit dem Text von mir. (28)
- 5) John ist so stolz, daß er wieder Schriftsteller *geworden* ist. (67)

### 3. zu をともなう名詞と共に (1 例)

質的な変化を表す。

- 6) Ich sitz jetzt bei Felsche und will nun zur Post trotteln, um daselbst zum reichen Manne zu *werden*. (25)

#### 4. その他 (40 例)

##### ① 生成を表す

- 7) Was nun *wird*, weiß ich nicht. (21)
- 8) Ja, ich weiß nicht, was *wird*, bevor I. nicht anders *wird*. (I. は Ilse の省略) (21)
- 9) Was aus dem Schulstreit *wird*, weiß ich noch nicht. (52)
- 10) Wenn ich nur bald wüßte, was mit Reinhardt *wird*, damit ich endlich weiß, wann ich nach Dresden fahren kann. (167)

##### ② 「事がうまくいく」、「首尾よく運ぶ」

- 11) Es *wird* oder *wird* nicht – man muß es hinnehmen. (44)
- 12) Na, auch das *wird* noch *werden*. (49)
- 13) Aber es *wird* schon *werden*. (153)

### III. 時制、法による分類

#### 1. 現在形 (105 例)

- 14) Wenn mir's zuviel Arbeit *wird*, rücke ich wieder ab. (15)
- 15) Hoffentlich *wirst* Du nur bald wieder ganz richtig gesund. (70)

#### 2. 過去形 (4 例)

- 16) Na, die Reise war soweit ganz gemütlich, obwohl es mächtig voll *wurde*, auch unterwegs viele nicht mitkamen. (260)

#### 3. 現在完了形 (23 例)

- 17) Ich bin, abgesehen vom Nachtdienst, sehr faul *geworden*. (23)
- 18) Anstatt Mutter zu *werden*, ist sie in aller Eile dummer Backfisch *geworden* [...] (30)

#### 4. 接続法 (11 例)

##### ① 接続法 II 式 (8 例)

- 19) Solch eine Ehe *würde* das Gräßlichste, das sich ausdenken läßt. (32)

##### ② 接続法 I 式 (3 例)

- 20) Also, Liebes, *werde* mir bald wieder ganz gesund! (71)

#### IV. 助動詞との共起 66 例

##### 1. *werden* との共起 46 例

助動詞 *werden* と共起している場合、いわば二重用法が 46 例見られた。内訳は形容詞との共起 24 例、名詞との共起 5 例、その他 17 例（慣用的表現 16 例、副詞との共起 1 例）であった。

21) Das *wird* sehr schön *werden*, mein Muttchen! (38)

22) Vor Montag *wird* er nicht fertig *werden*. (81)

23) *Wird* aber schon noch *werden*. (118)

この二重用法は予想していたよりも多かった。一定の変化、事柄が起こることを話者が予想したり、予告していると解釈される場合と、慣用的な言い回しの表現として用いられている場合とがあるようだ。

##### 2. 話法の助動詞との共起 20 例

多い方から *sollen* 6 例、*können* 6 例、*müssen* 4 例、*wollen* 3 例、*mögen* 1 例が見られた。

いずれも発話時点で事柄は実現していないと考えられる。

24) Ich fange also mit meinem Neujahrsbriefchen – denn das hier *soll* es *werden* – einen halben Tag zu früh an. (44)

25) Da *könnte* ich rasch bekannter *werden*. (65)

26) Sie *will* Reklame-Fachmann *werden* und ist ein feiner, anständiger Kerl aus gutem Hause. (72)

27) Sonntag *muß* er fertig *werden*, insgesamt 100 Seiten. (141)

28) Das Wetter *möchte* besser *werden*. (219)

#### V. おわりに

以上の分類から、いくつか問題点が指摘できる。

1. 述部や補足成文の性質によって、文として持つ意味内容は一様ではない。慣用的な言い回しを含め、事柄の変化や生起を意味する意味内容には、多義性が指摘できる。発話時に事柄が実現しつつあると解釈できる場合が認められたが、多義性と実現性との関わりについて調べる必要がある。
2. 助動詞として用いられる *werden* との共起、いわば二重用法が多かった。その理由は何であろうか。発話時点で未だ生起していない、即ち「未然性」をはっきり示すためであろうか。あるいは、話者の判断であることを明示するためであろうか。人称との関連などと共に、分析すべき点である。助動詞として用いられる *werden* の場合（動詞の不定詞と共に用いられる場合と、動作受動を作る場合）には、Modalverben 話法の助動詞との共起の方がはるかに多いことが認められ、本動詞 *werden* の場合とは逆の傾向が見られた。

3. 完了形に比べて過去形が非常に少なかった。それは「書簡」という文体によるのか、あるいは前後の脈絡によるのかなど、その条件としては種々の可能性が考えられる。当該の文を超えた分析が必要である。

今後の課題は、上に整理した問題点について詳細に調べ、その結果を踏まえて、筆者が長年検証を続けてきた助動詞 *werden* の意味用法や文法との比較を行うことである。それは、助動詞・本動詞の区別を超えて *werden* という動詞の全体像を把握することにつながると思う。